



平成29年度特集展示(会期：平成29年5月30日(火)～7月23日(日))

懐かしの旧福岡県庁

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 天神に建っていた旧福岡県庁

福岡県庁は現在、福岡市博多区東公園にあります。昭和56年(1981)までは、福岡市の天神(現在のアクロス福岡)に庁舎がありました。明治9年(1876)、現在の福岡県域確定と前後して、この場所に県庁が設置されます。そして大正4年(1915)、新たに洋式建築の庁舎が完成し、その後60年以上にわたって福岡県の中核として機能し、県民に親しまれてきました。

この建物に関しては、建築時の棟札や完成後の絵葉書など、数々の資料が残されています。今回は、この旧福岡県庁について、庁内の業務で用いられた県政資料とともに、紹介していきます。



旧福岡県庁の棟札(表)



(裏)

2 旧福岡県庁の建築資料

それでは、最初に建物に関する建築資料について、見ていきましょう。

(1) 棟札

旧福岡県庁は明治44年(1911)に起工し、大正2年(1913)には上棟式を迎えました。その際に、神々の加護を祈って設置された木の板が、棟札です。

この棟札を見ると、上部に6柱の神名が記されています。この内、^{はこぎき}菅崎八幡大神は地元の菅崎宮でおなじみですが、他の5柱の神について、少し見ていきます。まず^{やごころおもいかね}八意思兼大神は、衆智を兼ね備える神とされます。久々^{くくのち}能智神は樹木を掌る神、^{くさのひめ}草野比売神は原野を掌る女神、^{たおきほおい}手置帆負神と^{ひこさち}彦狭知神は、工匠の守護神です。

また神名の下には、当時の南弘知事以下、関係者の名前が並んでいます。この内、知事の^{さんじょうえいざぶろう}一つ下段左端の三條栄三郎は、建築主任を務めた福岡県の技師です。三條は当時、県内の多くの建築に携わり、旧福岡県公会堂^{きびん}貴賓館や太宰府天満宮^{あまの宮}楼門なども手がけました。

(2) 絵葉書

大正4年、旧福岡県庁は竣工します。この頃の姿が絵葉書に写されています。これらは宛名面の特徴から、大正7年までに製作されたものと見られます。まず外観を撮影した絵葉書を見てみると、この建物は地上2階建(地下1階もあり)で、中央に塔も見えます。また一見石造りに見えますが、実際にはレンガ造りで、外壁のみ石やモルタルで仕上げた構造でした。



絵葉書(正面全景)

なお、中央塔からの展望を写した絵葉書には、この建物に匹敵するような高い建物の姿はなく、当時の旧福岡県庁が周囲と比較して、相当大きな建物であったことが窺えます。

次に内部を見てみましょう。正面の車寄せから、正面玄関を入ると、その先に広間と階段があります。広間からは回廊状に廊下が続き、それに面して知事室や各課の執務室が並んでいました。正面玄関上には儀式などに用いる正庁と呼ばれた部屋があります。建物中央部は、福岡県会（現在の県議会）の議事堂となっていました。絵葉書を見ると、知事室や議事堂には、県政の中枢にふさわしく、豪華な装飾が施されていました。また玄関や正庁に通じる広間の天井には、ステンドグラスが設置されていました。

竣工翌年の大正5年、福岡県で実施された陸軍特別大演習の統監のため、大正天皇の福岡県行幸が行われた際は、県庁が大本営として利用されました。天皇が馬車で「大本営」の看板が掛けられた正門を出発する姿も、絵葉書に写されています。

(3) 福岡県庁舎新築設計図(復原)

明治時代末期に作成された新築時の設計図を、後の調査の際に復原したものの写しです。外観の図面と内装の図面があります。旧福岡県庁は、ヨーロッパのルネサンス様式を基調とした最新の洋式建築で、完成時には地元新聞に「白亜造りの福岡県庁」と称されましたが、外観の図面から、建物の壮麗さがよくわかります。建物中央の広間と階段部分の縦断図には、階段の欄干などに精緻な彫刻が施されていた様子が記録されています。

後に、この建物が解体された際には、図面の復原や建築に関する調査が行われ、その成果として100分の1の模型が製作されました。

3 旧福岡県庁時代の県政資料

旧福岡県庁は戦前から戦後まで、60年以上にわたり県政の中枢として機能していました。この建物の中で使われていた多くの県政資料も、現存しています。こうした資料から、旧福岡県庁が活躍していた時代の県職員の動きや、県庁で行われていた業務の一端を知ることが出来ます。

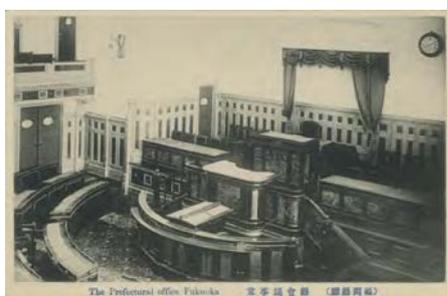
たとえば「正規職員任免」と「辞令原簿^{じれいげんぼ}」は、大正時代の県職員の人事に関する記録です。戦前、府県は地方自治体であると同時に、国（内務省）の出先機関でもあり、職員も国の官吏・官吏待遇者と、県の吏員等がいました。これらの資料は県職員の内、官吏についてのもので、県の人事を内務省本省などが決定していたことなどがわかります。また、戦時期に作成された「軌道許認可^{きどうきんか}」には、「即日即行 銃後の笑顔^{じゅうご}」という戦時標語が記されており、戦時下の雰囲気伝えていています。

戦後になると、社会の激変とともに、県行政のあり方も大きく変わりました。昭和22年（1947）、日本国憲法および地方自治法の施行にあわせて、それまで国が決めていた県知事も、住民による公選となりました。この時の「事務引継書」には、最後の官選知事と最初の公選知事の署名があり、地方自治制度の大きな転換を、象徴的に示しています。

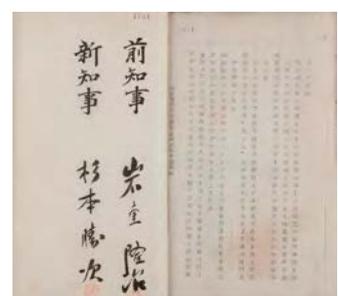
そして県では、組織改編や新規開発計画の策定などが次々に行われますが、この過程で県の業務も組織規模も拡大し、旧福岡県庁では手狭となっていました。昭和56年、旧福岡県庁はその役目を終え、翌々年に解体されました。現在、跡地に整備された天神中央公園には、正面玄関の柱が保存され、この場所に県庁が建っていた名残と、建築意匠の一部を伝えていきます。（学芸調査室 渡部邦昭）



絵葉書(知事室)



絵葉書(県会議事堂)



事務引継書
(福岡共同公文書館蔵)



編集 発行: 平成29年5月30日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>